

(様式2)

令和2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200281		
法人名	社会福祉法人長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホーム中之島		
所在地	新潟県長岡市中之島2105番地6		
自己評価作成日	令和2年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム中之島は平成21年7月に開設し、同一敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービス、デイホーム、居宅介護支援事業所、パワーステーションが併設し行事の際には合同で交流を図っている。平成29年度より認知症カフェを開催しており、情報発信をしながら地域との交流を図ったり、特養に売店を作った事で近隣の方にも足を運んでいただくなどして、施設を知ってもらえるように努めている。

グループホーム前には水田や蓮田んぼ、花壇等があり、ご利用者がいつでも四季を感じられたり、自由に散歩ができる自然豊かな環境となっている。また、畑を広げ、地域の方に協力していただきながら、苗植えから収穫までご利用者と一緒に行う事で、力を発揮していただき楽しむ事ができている。

職員の研修については特養で行う施設内研修の他、認知症ケアに重点を置き、併設のデイホームや同じ管轄のグループホームと合同の勉強会や法人内グループホームの全体研修会等で学びを深めている。また、外部講師によるチームマネジメント研修を取り入れている他、高齢者虐待防止研修の計画を予定している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧中之島町時代に地域福祉の拠点整備を計画する町の要請に応じて、地域で唯一の入所施設である特別養護老人ホームを主体とした高齢者総合施設(本体施設)の敷地内に、認知症対応型通所介護事業所を併設した地域密着型複合施設として開設された。事業所は産業団地に立地しており、年々企業の進出と新興住宅の建設が進み、周囲は変化を続けている。近隣住民は若年層の世帯も多いため、事業所を身近に感じてもらうよう本体施設内に売店「なかマルシェ」とカフェバー「であえる」を開店し、若年層の視点も取り入れて地域に根差した事業所づくりに取り組んでいる。敷地内は築山や種々の草木等で緑に囲まれ、事業所前の蓮池や水田、畑、花壇は地域住民の心と目を休める空間であり、住民の憩いの場となっている。平日は近所の住民がボランティアで整備をし、休日には子どもたちがザリガニなどを探しに集まり、利用者は遊歩道に出て自然に触れながら地域の人たちとの交流が生まれている。

新型コロナウイルス感染防止のため地域への外出自粛が続き、地域に出たり外部の人との関りが制限される中で、事業所は利用者の楽しみや意欲を引き出せるように、作品作りやレクリエーション等を取り入れた体操、一人ひとりの能力に応じた役割を持って生活してもらうことに重点を置いて支援しており、利用者の生き生きとした表情や姿が見られる。職員は、事業所の理念である「共に笑顔」で利用者の楽しみや生きがい、自己実現を支援し、「利用者の気持ちを大切に事業所づくり」を実践している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分たちで考えた理念をホールに掲示しており、グループホーム会議の際に共有し実践に努めている。	事業所の理念はこれまで数回の見直しをしており、今の理念は「利用者との関係を深めたい」との思いを込めて作成した。理念を具現化するために重点目標を設定し、定期的に話し合ったり、年度末には振り返る機会を持ち、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域とのつながりが減少しているが、畑のボランティアの方々の手伝いもあり、畑を通してつながりを継続している。	運まつりや収穫感謝祭での交流、自治会に加入して地域行事への参加等を通じて事業所のことを理解してもらうよう努めてきた。今では敷地内の畑の作業や花壇の整備は地域住民が主体的に行ってくれるようになり、気軽に訪ねてもらえるので、コロナ禍においても地域とのつながりを実感しながら暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が地域の車椅子操作の講師に出向いたり、オレンジカフェの中で認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の方の理解や支援方法を伝える等、啓発活動に努めていたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度(5月、7月)は書面にて開催を行い、事業所の取り組み、活動を評価していただき、サービス向上に活かしている。	会議は併設の通所事業所と合同で開催し、利用者・家族の代表、町内会長、住民代表、市担当者、地域包括支援センター職員の参加で、2か月に1回実施している。運営状況や利用者の状況報告を行い、地域情報を得る機会となっている。行事に合わせて開催したり、スライド写真を使用して利用者の様子を見てもらっている。コロナ禍では書面開催が続き、「評価・要望等照会書」で意見聴取や評価をしてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において書面で報告を行い、返信をいただいている。その他、市のホームページに空所情報を掲載している。	運営推進会議に参加してもらったり、市の介護相談員を受け入れて事業所の取り組みについて理解を得ている。市主催の地域密着型サービス事業所管理者研修や意見交換会への出席のほか、申請書類等を支所へ直接持参して、顔の見える関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一敷地内の特養と合同で研修を開催し参加する事で身体拘束について共通認識を図っている。また、対応困難ケースについては管理者に相談したり、身体拘束廃止委員会で検討するなどして対応している。	全職員が研修に参加して、身体拘束の内容やその弊害を学んでおり、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束廃止委員会にはリーダー職以上の職員が出席して法人内事業所の事例を共有し、防止徹底の注意喚起を図っている。管理者や職員は常に高い意識を持ち、言葉による拘束や無意識のマナー違反にも細心の注意を図っている。転倒の多い利用者に対しては安易にセンサーマットには頼らず、家族と状況やリスクを検討して環境整備をすることで安全で抑圧のない生活を支援している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一敷地内の特養と合同で研修を開催し、全職員を対象に計画され、虐待防止について理解をした上で支援している。	全職員が研修に参加して、利用者の権利擁護や不適切ケア、何が虐待に当たるのかを学んで理解を深めており、管理者や職員は虐待防止の徹底に強い意識を持っている。職員の疲労やストレスにも気を配り、勤務表での配慮や必要時は上司との個人面談を行い、職員の精神的なケアにも取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、成年後見制度などの研修の中止やオンライン研修へ変更になっているが、今年度は研修を受ける機会、学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に計画作成者が十分な説明を行い、理解や納得を得ている他、管理者からも入居時のオリエンテーションをしてもらっている。入居後もこちらから声をかけ不安や疑問がないかをお聞きし対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。運営推進会議の委員の方に書面にて意見や要望をお聞きし運営に反映させるよう努めている。その他、面会時や受診の際、意見、要望等を聞き取るように努めている。	利用者には日々のケアや活動の中で意向や意見、要望を聞き取っている。意思表示が難しい利用者には表情やしぐさのわずかな変化を見逃さないように注意して思いを推し量っている。家族とは話のしやすい関係づくりに努めており、面会時に聞き取っている。家族からは運営推進会議という名称では敷居を感じることや家族全員に出席してほしいとの意見があり、会議の名称を「はすね家族懇談会」とした経緯がある。	以前は事業所独自でサービス評価アンケートを実施する等、家族の声を拾い上げる取り組みを行っていたが、現在は行われていない。コロナ禍において家族との面会時間が制限されていることを鑑みて、家族の意見や要望の把握について多様な方法や機会を設けてサービスの質の向上につなげていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じ、個別的に意見を聞く場を設けたり、アクションプラン検討を含めて会議を行っている。	管理者や職員間にはお互いに意見を言いやすい雰囲気があり、日頃から直接意見交換や提案をしている。「記録ノート」を活用したり、「今年度の振り返りと新年度の意向」シートで職員の意見や提案を聞く機会がある。業務に関する意見は、事業所の重点目標を達成するためのアクションプランに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アクションプラン検討を含めた会議を行う中で、適宜現場の状況を確認し、変化や状況に合わせて職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特養と合同の1日研修や法人内の研修を受けている。今年度よりリーダー以上のクラスの職員はチームマネジメント研修に参加している。法人外の研修については出る機会が少ない状況となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の全グループホームで月1回会議を開催し情報交換を行っている他、全体研修会で意見交換や勉強会を行っている。意見交換や相談する事で交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅等に訪問しご本人と面談する事で困り事や不安な事をお聞きしたり、環境を把握する事で入居後、安心していただけるような対応を検討し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し、今までの生活状況や困り事、不安をお聞きし安心していただけるように対応している。特にサービスの利用が初めてのご家族には十分な説明を行いお話を聞きするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要なサービスは何か、管理者や看護師等、他職種に相談し、必要なサービスにつなげられるよう、法人内施設を中心に連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日々ご利用者と一緒に家事などを行っている。共同生活を行うことでお互い支え合いながらコミュニケーションを取り、信頼関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限時はお手紙や電話連絡時に状態報告を行い、協力依頼をしている。	家族は利用者にとって精神的な支えであると考えており、通院の付き添いや行事への参加、日用品の準備等をお願いして面会の機会が増えるようにしている。コロナ禍では、感染防止策として面会場所を本体施設に変えたり、オンライン面会を導入したり、手紙や電話を多用して家族とともに本人を支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限時は電話連絡をいただき、馴染みの方との関係が途切れないよう支援に努めている。	入居時にセンター方式のアセスメントシートを活用して家族から情報収集している。同一敷地内の本体施設は地元の方が多く利用しており、施設内の売店やカフェバーに通うことで馴染みの人との関係が継続できている。地域の商店街での買い物外出や、電話や手紙を通じて関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士のコミュニケーションを図る為に職員が同席したり、食事席を検討するなど、孤立される事の無い様に関わっている。他部署にも気軽に外向き交流を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ、ご家族の相談をお聞きしている。特養に入所後も面会に行くなどしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向を把握し職員間で情報を共有して、対応方法を検討している。また内容によっては、ご家族に相談しながら協力を得る事もある。	今年度は「利用者のことをもっと深く知る」ことを重点目標に掲げて取り組んでおり、職員全員が利用者との日常の関りの中で一人ひとりの思いを見逃さないように注意を払いながら接している。気づいたことや把握したことはセンター方式のアセスメントシートに追記して情報共有している。	センター方式のアセスメントシートを活用して思いや意向の把握に努めているが、情報が少なく、整理が進んでいない状況にあった。特にCシートを丁寧に記載し情報を蓄積して利用者の思いをより深めていけるよう、今後の取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りやその他、ご本人・家族から聞き取りを行い職員間で情報共有に努めている。また、面会制限時は、電話連絡時、受診時に情報収集を行い把握に努めている。	入居前には事前訪問を行い、本人や利用していたサービス事業所の担当者から話を聞き、家族からはセンター方式のアセスメントシートを記入してもらい、これまでの生活歴や暮らし方、好きなこと等の把握に努めている。入居後も継続して本人や家族の他、本人をよく知る地域の関係者からも話を聞くなど、多方面から情報収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングで各ご利用者の身体状態や言動などを申し送り、状態の把握や対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当と計画作成担当で本人・家族の意向や希望を確認してケアプランを作成している。モニタリングでは他職員からの意見やアイデアをプラン作成に活かしている。	暮らし方に対する本人や家族の意向の把握やアセスメント、それに基づく介護計画の作成、モニタリングが定期的に行われている。介護計画の作成時には他の職員からも意見聴取して利用者の意向を計画に反映させるよう努めており、サービス担当者会議には本人や家族に参加してもらい、必要に応じて看護師やかかりつけ医からも意見聴取している。介護計画には説明日と同意日が記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や状態は業務日誌に残しており職員間で共有し対応の検討、実践をしており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を確認しながら対応している。併設している特養のパワーステーションを利用しているご利用者がおられたり、受診時の送迎や付き添いなども状況や希望により対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、習字クラブ等の活動は中止になっているが、地域の方から畑作りの協力を得て畑で野菜の収穫を楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前よりかかっていたかかりつけ医にご家族と共々受診していただいている。その際には日頃の様子等を書いた手紙をお渡ししている。家族状況等により、職員対応や往診をしていただき、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者それぞれのかかりつけ医への受診を継続しており、受診は家族の付き添いが基本であるが、必要に応じて事業所に対応したり、家族に職員が同行することもある。利用者の健康状態や日常の様子については状態報告書にまとめてかかりつけ医に報告し、必要に応じて直接連絡や相談を行うなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養と兼務の看護師にバイタル測定、状態観察等を行ってもらったり、ご本人の状態変化時の気づきや薬の内容等、報告、相談している。ご利用者が健康に過ごせるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、入院中は看護師やソーシャルワーカーと情報交換、相談させていただきながら、本人や家族に安心していただけるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に説明させていただいている。入居後も状態変化時にはその都度、説明し今後のあり方について相談している。	入居時に重度化した場合の指針や終末期の対応について事業所としてできること、できないことを説明しており、家族等の意向を確認している。利用者一人ひとりの状態に応じて、意向の再確認や家族、かかりつけ医との相談を重ねるプロセスが大切と考えており、丁寧に支援している。	終末期の対応については、利用者や家族の意向や、かかりつけ医との連携、一人ひとりの状態に合わせた支援を慎重に検討した上で、看取りに対応する考えである。まだ看取りの事例は発生していないが、看取りに対応するという職員の意識の共有化をさらに進めてほしい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルス予防、発生時のためのマニュアルの確認、また、年2回の嘔吐処理研修を行っている。夜勤帯の不安・心配のある職員もいるため、発生時対応のフローチャートの作成やマニュアルの確認などを行っている。	本体施設と合同で研修を行っており、全職員が急変や事故発生時の対応を学んでいる。また急変・事故発生時の対応フローチャートやマニュアルが整備されており、職員はいつでも確認でき、適切に初期対応が行えるように備えている。発生した事故についてはヒヤリハットやアクシデントレポートを記入し、再発防止策を立て、その評価と見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災・水害発生時の日中・夜間想定の実践を行い、全職員が参加できるように職員はローテーションで参加している。	消防署や町内会の立会いと参加を得て、年4回避難訓練を実施している。事業所は水害に必要な地域にあり、本体施設への垂直避難を確認している。居室の出入り口には避難完了を示すカードが備えられ、訓練の中では非常用トイレの設置や物品の移動、炊き出しの演習等を行い、災害時には的確な行動や対応ができるよう取り組んでいる。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修において理解を深めている。また、利用者の性格等を把握した上で言葉かけを行っている。不適切な言葉かけや対応があった際には毎日のミーティング時や部署会議にて話し合いをしている。	利用者は「人生の先輩」として敬う姿勢が職員間で徹底されており、利用者の尊厳や一人ひとりの特性に合わせた丁寧な言葉かけや対応、羞恥心への配慮がなされている。大きな声で声掛けはしない、名前は基本として名字で呼ぶ等を確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数選択していただけるような声かけをしたり、一方的な声かけにならないよう「～して良いですか？」と本人に決定していただけるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースは大切にしているが、希望に沿った支援については、散歩などすぐに対応できる事はしているが、内容によっては対応に時間がかかる場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみは毎日行い外出時その人らしい服装やこだわりを気にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストメニューやアイデアメニュー、季節食を取り入れたり、畑の野菜を使い食事を楽しんでもらっている。準備、調理、片付けを職員と一緒にやり、得意な事を活かしながら意欲的に力を発揮していただけるよう努めている。	利用者の要望や嗜好を把握し、畑で採れた旬の野菜を取り入れてリクエスト料理やアイデア料理として提供している。利用者一人ひとりの能力に応じて、食事の準備や片付けに参加できるよう支援している。コロナ禍では外食ニーズへの対応として、玄関先で食事をしたり、芋餅や干し柿等のおやつ作りを楽しんでいる。昨年12月より、朝食と夕食3日分は宅配食を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量や好き嫌い、その日の体調などに合わせ、個々の状況に応じて対応している。栄養面については献立表を管理栄養士に確認してもらい作成している。必要に応じ水分チェック表を記入する事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛け、介助の必要な方へは一部介助等行い、その方に応じたケアを行っている。また、歯の痛み、義歯が合わない等の場合にはすぐに往診していただくなどし対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンや尿便意時の言動、行動パターンを職員間で共有し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。また、トイレ以外で排泄してしまう方については職員やご家族と連絡を取り検討を行いながら支援している。	排泄に関するケアチェックシートを活用してアセスメントを行い、日常の中では排泄チェックシートを記入して排泄パターンを確認し、一人ひとりに応じた対応や声かけをして自立支援に努めている。居室内で排泄してしまう方には「ひもときシート」を活用して検討し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より、水分摂取に努めている。便秘傾向の方については、水分チェック表を使用し水分量を確認し摂取していただく事で、できるだけ下剤に頼らない排便を心がけている。全体的に活動量が少ないため、検討していきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の本人の体調や気分に合わせて変更している他、毎日の入浴や時間の希望には応じている。入浴を拒否される方についても職員間で情報共有、対応の検討を行っている。	入浴は利用者の希望に応じて、週2回以上で午後の時間帯で支援しており、同性介助の希望にも対応している。個浴対応が困難となった場合には本体施設の特設浴槽を使用して支援することができる。入浴の拒否がある方には日時や声かけする職員を変えたりしながら柔軟に対応している。入浴を楽しんでもらえるようりんご湯やゆず湯等を企画している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や本人の状態によって休んで頂いたり、居室の環境等配慮し安心、安眠して頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をファイルし、服薬の変更時は申し送り等を行い情報共有している。体調変化時は薬の副作用がないかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を活かし、日々の家事仕事や、毎月の習字クラブに参加して頂くなど支援している。まだ、十分に把握できていないご利用者もいるため、今後、検討していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に合わせた外出行事は新型コロナウイルス感染拡大防止のため控えているが、畑作業や施設内の散歩などで気分転換していただいている。また、自宅に帰りたいという希望についてはドライブなど個別に対応している。	コロナ禍で地域への外出自粛が続いているが、利用者の気分転換やストレス発散のためにも外の空気に触れることは重要と考えている。感染防止策を講じて、事業所の周囲で自然を散策したり、ゴミ捨てに行ったり、本体施設内の売店やカフェバーを利用して外出する機会を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持しているご利用者はいられないが、今後、必要に応じ支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった際には電話をかけたり、手紙や年賀状のやり取りを自由にしてもらえよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や声の大きさ、日差しについては刺激にならないように配慮している。ホールの装飾は行事等の写真を掲示し、楽しんでいただけるよう努めている。	リビングの大きな窓からは温かい光が差し込み、蓮池や水田、畑が眺められ、季節の変化を感じることができる。畳コーナーに掲示された蓮池の写真は初夏を、リビングに飾られた手作りのかかしは実りの秋を感じさせ、落ち着いて過ごせる雰囲気づくりをしている。職員の死角になる廊下には椅子を設置して、利用者がその日の気分によって場所を変えて過ごせるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置くことで馴染みのご利用者同士がお話されたり、時には昼寝をされたりとくつろぎの場となっている。また、1人になりたい時は廊下の長椅子などで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族に協力していただき、馴染みの物を持参していただいている。入居後も、ご本人が居室でも生活しやすいようにご本人・ご家族と相談しながら環境を整えている。	居室には使い慣れたタンスや先祖代々の仏壇、家族の写真等の思い出の品や、趣味であった琴や編み物の材料を持ち込み、一人ひとりの生活歴に合わせた居室づくりが行われている。プライバシーが守られるように全室に内鍵がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所など、わかりやすいように掲示している。居室のタンスもご利用者をご自分で衣類をしまえるように位置やラベルを貼り工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				